

3. 調査結果(事例調査)

障害者のスポーツには、障害者のリハビリテーションや余暇活動を支援する「障害福祉」と、障害の有無を問わず、誰もが楽しめる「生涯スポーツ」の2つの側面がある。このため、障害者スポーツを担当している部署も、自治体により障害福祉部局とスポーツ振興部局に分かれている。都道府県と市区町村の障害者スポーツ推進体制を把握するため、主管部署、自治体の規模、特徴的な事業などを考慮して事例ヒアリング調査を実施し、結果をまとめた。

図表 1-40 事例調査で対象とした地方自治体リスト

自治体名	主管部署	特徴
東京都	スポーツ振興局 スポーツ事業部 調整課	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ振興局の設立により、障害者スポーツがスポーツ行政として一体的に推進 ● 国・全国都道府県で初となる「東京都障害者スポーツ振興計画」を策定
鳥取県	福祉保健部 障がい福祉課 自立支援室	<ul style="list-style-type: none"> ● 圏域障害者スポーツコーディネーターによる障害者スポーツの掘り起こしを実施 ● スポーツ振興審議会に3人の障害者スポーツ関係者が選出
山口県	健康福祉部 障害者支援課 社会参加推進班	<ul style="list-style-type: none"> ● 2011年の全国障害者スポーツ大会(山口大会)を契機に障害者スポーツの振興を図る体制を構築 ● 障害者スポーツ人材バンクに医療関係者も含めて171人が登録 ● 市町の障害者スポーツ協会設置など、地域の拠点づくりを支援
大分県	福祉保健部 障害福祉課 計画・スポーツ班	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の障害者スポーツの父、故・中村裕博士の尽力で、障害者スポーツが他県に先んじて普及 ● 県障がい者スポーツ協会が仲介し、総合型クラブで障害者スポーツの交流が実現
東京都葛飾区	教育委員会 生涯スポーツ課	<ul style="list-style-type: none"> ● 1994年から教育委員会生涯スポーツ課が障害者健康水泳教室を実施 ● 葛飾区独自で障害者スポーツの指導員を養成
兵庫県多可町	健康福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉協議会を通じて、特別支援学校と小中学校の生徒が活発に交流 ● レクリエーションに精通したスタッフが考案した種目を毎年提供し、参加者が飽きない大会を継続開催

東京都

- 2010年7月のスポーツ振興局設立により、一般スポーツと障害者スポーツが一元化され、障害者スポーツもスポーツ行政として一体的に推進
- 今後中長期にわたる都の障害者スポーツ振興の指針となる、国・全国都道府県で初となる「東京都障害者スポーツ振興計画」を、2012年3月に策定

1. プロフィール

人口	13,163,332人
総面積	2,188km ²
市町村数	62(23区26市5町8村)

2. 担当部署

部署名	スポーツ振興局 スポーツ事業部 調整課
人員規模	担当課長、担当係長、職員、専務的非常勤職員の4人が障害者スポーツ担当として配置

3. 予算

- 障害者スポーツの振興:約2億1千万円(2012年度)
 - 障害者スポーツセンターの運営:約6億7,000万円(2012年度)
- 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会(以下、都障協)が指定管理者として、管理・運営

4. 事業の紹介

- 障害のある人への障害者スポーツの情報発信と相談機能の強化

- 1) 障害者スポーツ専門ポータルサイト「TOKYO 障スポ・ナビ」の開設(2012年度～、都障協共催事業)
- 2) 障害者スポーツイベント「チャレスポ! TOKYO」(2012年度～、都障協共催事業)
- 3) 東京都障害者スポーツセンターにおけるスポーツ相談

- 障害者スポーツの理解促進・普及啓発

- 1) 障害者スポーツプロデュースマニュアル【障害者スポーツ取組事例集】の作成(2011年度)
- 2) 東京都スポーツ情報サイト「スポーツ TOKYO インフォメーション」における「ダイナミック・ムーブ! 障スポ」の掲載(2011年度～)
- 3) スポーツイベント等を活用した普及啓発
- 4) パラリンピアン出前授業(2011年度～、都障協共催事業)
- 5) スポーツ雑誌での障害者スポーツの発信(2012年度)
- 6) 都民体育大会と東京都障害者スポーツ大会の合同開会式(2011年度～)
- 7) 障害者スポーツ分野の功労者等への表彰(2012年度～)



○障害者スポーツの場の開拓・整備

- 1) 障害者スポーツ地域開拓推進事業(2011年度～、都障協補助事業)
 - ①障害者スポーツ開拓推進事業
 - ②障害者スポーツ指導員等派遣事業
 - ③障害者スポーツ用具貸与事業(2012年度より実施)

○障害者スポーツを支える人材の育成・確保

- 1) 障害者スポーツセミナーの実施(2011年度～、都障協共催事業)
- 2) 障害者スポーツ指導員資格取得の促進

○障害者スポーツ競技団体の組織力や競技力向上のための体制整備

- 1) 強化練習会の実施(2011年度～、都障協共催事業)

○障害者スポーツ大会

- 1) 東京都障害者スポーツ大会
参加者約 6,500 人、日本最大規模の地方大会
- 2) 全国障害者スポーツ大会への選手派遣
第 12 回全国障害者スポーツ大会「ぎふ清流大会」に 13 競技 315 人を派遣

○障害者の専用・優先スポーツ施設の運営

- 1) 東京都障害者総合スポーツセンター
- 2) 東京都多摩障害者スポーツセンター

○東京マラソンにおける障害者部門の実施

マラソン車いす(21人)、10km 車いす(10人)、10km 視覚障害者(27人)、10km 知的障害者(91人)の合計 149 人が参加

5. 関係組織の状況

障害者 スポーツ団体	<p>1) 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 2003年に社団法人として設立、2009年より公益社団法人 予算:約8億6,000万円(2012年度) 障害者の心身の健康の保持増進と自立、社会参加の促進を図るため、スポーツの奨励振興に関する諸事業を行うことで、障害者の福祉向上に寄与することを目的とする。</p> <p>【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者のスポーツ活動の奨励振興事業 ・各種スポーツ大会等の開催と協力事業 ・東京都障害者スポーツセンターの経営事業 <p>2) 東京都障害者スポーツ指導員協議会 1987年設立の任意団体。会員約1,800人。地域ボランティア、日本体育協会公認スポーツ指導員、福祉施設職員、特別支援学校教員、自治体職員、スポーツ施設指導員などで構成。事務局は、東京都障害者スポーツ協会内。</p>
---------------	---

6. 特徴的な体制や取組み

2010年にスポーツに関する所管部局を一元化し、スポーツ振興局を設置。障害者スポーツを含めたスポーツ行政を総合的かつ一体的に推進する体制を整備。2011年3月には、全国初の取組みとなる障害者スポーツに関する中・長期計画「東京都障害者スポーツ振興計画」を策定。

障害者スポーツ振興計画の策定にあたり、障害者スポーツに関する実態を把握するために、「障害のある人」「スポーツ推進委員」「障害者スポーツ指導員」を対象に調査を実施。

鳥取県

- 圏域障がい者スポーツコーディネーターによる障害者スポーツの掘り起こし
- スポーツ審議会に3人の障害者スポーツ関係者が選任

1. プロフィール

人口	588,667人
総面積	3,507km ²
市町村数	19(4市14町1村)

2. 担当部署

部署名	福祉保健部障がい福祉課自立支援室
人員規模	福祉保健部に障害者スポーツ担当者を1人配属。担当者、自立支援室室長、課長補佐の3人で対応

3. 予算

約3,000万円(2011年度) ・一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会への委託経費：約1,100万円 ・団体が開催する大会に対する助成：約600万円 ・県障がい者スポーツ協会への運営費補助：約700万円 (その他) 鳥取県立障害者体育センターの運営費 約600万円(2011年度)

4. 事業の紹介

○障害者スポーツ競技大会

1) 鳥取県障がい者スポーツ大会(県障がい者スポーツ協会への委託事業) 全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねた大会 2009年度より毎年開催。6競技に選手150人が参加(2011年度)
2) 全日本 challenged アクアスロン皆生大会 知的障がい児・者によるマラソン・水泳の複合競技大会 2007年より開催。参加者123人、ボランティア約450人(2011年度)

○障害者スポーツ・レクリエーションの運動会(市民大会など)

1) 鳥取県身体障害者体育大会(県障害者福祉協会への補助事業) 鳥取県身体障害者福祉協会が主催、鳥取県、鳥取県障がい者スポーツ協会が共催している。 身体障害者やその保護者、役員、ボランティア等、約450人が参加。
--

○障害者スポーツ・レクリエーションの教室

1) スポーツ教室開催事業 身体障害者は、卓球バレーやペタンク、知的障害者は、支援学校4校で交流大会を実施、精神障害者は、バレーボールを中心に実施。県障がい者スポーツ協会の障害者スポーツ指導員が指導にあたる。

2) 圏域障がい者スポーツ教室の開設

圏域障がい者スポーツコーディネーターを配置し、東部、中部、西部でスポーツ教室を開催。地域や福祉施設等での訪問活動や支援者の調整など地域に根付いたスポーツ活動を支援。
(2010～2011 年度事業) 【ふるさと雇用再生特別交付金事業を活用】

○全国障害者スポーツ大会への選手派遣 (県障がい者スポーツ協会への委託事業)

1) 全国障害者スポーツ大会派遣事業

2012 年ぎふ清流大会に 6 競技 18 人を派遣

2) 強化練習事業 (5 回)

○障害者スポーツ指導者養成講習会 (県障がい者スポーツ協会への委託事業)

スポーツ指導員養成事業 (2011 年度)

- ・ 予算：約 38 万円
- ・ 内容：初級障害者スポーツ指導員の養成。4 日で 33 人を養成

○障害者と健常者の交流を目的としたスポーツ大会

1) 鳥取さわやか車いすマラソン大会 (県障がい者スポーツ協会への補助事業)

- ・ 対象：年齢種・障害種 (身体/知的/精神) に応じた 60 区分
- ・ 参加者：約 600 人
車いす (80 人)、知的 (60 人)、
身体 (60 人)、健常者 (400 人)。
車いす選手と健常者が併走。



- ・ 内容：2004 年から開催
ノーマライゼーションを兼ねて 2008 年から健常者と一緒に開催
(湖山池ハーフマラソン大会)

2) 鳥取県陸上競技選手権大会

- ・ 参加人数：約 1,200 人 (鳥取県障がい者陸上競技協会の会員 12 人が参加)
- ・ 講師：山本篤氏 (ロンドンパラリンピック入賞者)
- ・ 内容：大会参加後、意見交換会実施

○障害者スポーツ選手の講演会や実技披露等 (県障がい者スポーツ協会への委託事業)

1) アダプテッドスポーツフェスティバル (ボッチャ) (2011 年度)

- ・ 参加人数：28 人 (内サポーター 5 人) 鳥取養護学校の生徒
- ・ 講師：内田恵三氏 (北京パラリンピック入賞者)
出本曜子氏 (日本代表コーチ)
- ・ 内容：講義後、ゲームを実施
- ・ 経費：約 18 万円

2) アダプテッドスポーツフェスティバル (陸上競技) (2011 年度)

- ・ 参加人数：約 300 人 (岩美中学校全生徒)
- ・ 講師：山本篤氏 (ロンドンパラリンピック入賞者)
- ・ 内容：講演後、実技指導

<ul style="list-style-type: none"> ・経費：約 23 万円 <p>3) アダプテッドスポーツフェスティバル（車いすテニス）（2011 年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数：約 1,000 人（八頭高等学校全生徒） ・講師：国枝慎吾氏（ロンドンパラリンピック金メダリスト） ・内容：トークショー後、テニス部 28 人に対して実技研修 ・経費：約 50 万円

○その他の事業

<p>1) スポーツ指導員派遣事業（2011 年度）（県障がい者スポーツ協会への委託事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算：約 19 万円 ・内容：障害者、保護者等の要望に応じて、障がい者のスポーツ活動の場に指導者派遣 ・派遣実績（のべ）：約 300 人 <p>2) トイレ設備改修（2011 年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算：約 390 万円 ・内容：米子市民体育館の男女各 1 室を障がい者用多目的トイレに改修 <p style="text-align: right;">【体育館等バリアフリー緊急整備事業の補助金を活用】</p>

5. 関係組織の状況

<p>障害者スポーツ団体</p>	<p>1) 鳥取県障がい者スポーツ協会 1987 年設立。障害者スポーツ指導員が現在 3 人常駐。2012 年 4 月一般社団法人化。鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会と連携 加盟団体：13 団体 予算：約 2,400 万円 【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会の支援 ・広報活動 ・協賛団体及び個人の募集 <p style="text-align: right;">【わかとり国体開催記念スポーツ振興基金を活用】</p> <p>2) 鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会 1996 年、日本障害者スポーツ指導者協議会鳥取県支部として設立。2011 年に鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会に改名。会員数 157 人（2010 年度）</p>
------------------	---

6. 特徴的な体制や取り組み

<p>「ふるさと雇用再生特別交付金事業」により、『圏域障がい者スポーツコーディネーター設置事業』（約 646 万円：2011 年度）を設けて、2010 年～2011 年に期間限定で県障害者スポーツ協会のスタッフとして 2 人雇用。障害者スポーツ講習会の開催、地域や福祉施設等での訪問活動や支援者の調整など地域に根付いたスポーツ活動を支援したことで、現在の障害者スポーツ振興に貢献した。</p>
<p>障害者にかかわるスポーツの議論については、以前はスポーツ振興審議会で行われていたが、2006 年からは、教育審議会の生涯学習分科会にて議論。2012 年には、鳥取県スポーツ審議会を設置、全委員 15 人のうち、障害者スポーツ関係者を 3 人選任し、健常者スポーツ</p>

と障害者スポーツの役割分担がより連携されて議論されるようになった。

県内の障害者スポーツ振興について把握し、新規事業企画立案の参考にするために、鳥取県障がい者スポーツ協会が社会福祉協議会、身体障害者関係団体、一般施設関係者などを対象に「鳥取県における障がい者のスポーツ・レクリエーションに関する実態」についてのアンケート調査を実施、56 団体、502 人から回答を得た。

1985 年に鳥取県で開催された第 21 回全国身体障害者スポーツ大会を契機に、県内のスポーツ振興を図るため、鳥取県心身障がい者スポーツ振興基金が設置され、現在、一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会が管理・運営を行い、加盟団体等に補助金を交付している。

山口県

- 2011 年の全国障害者スポーツ大会(山口大会)を契機に障害者スポーツの推進を図るための体制を構築
- 障害者スポーツ人材バンクに医療関係者も含めて 171 人が登録
- 市町の障害者スポーツ協会設置など、地域の拠点づくりを支援

1. プロフィール

人口	1,429,338 人
総面積	6,114km ²
市町村数	19(13 市 6 町)

2. 担当部署

部署名	健康福祉部障害者支援課 社会参加推進班
人員規模	障害者支援課の人数は 41 人で、11 人いる社会参加推進班の内、2 人が障害者スポーツを担当している。

3. 予算

約 5,500 万円(2012 年度) <ul style="list-style-type: none">・全国障害者スポーツ大会派遣事業:約 2,100 万円・障害者スポーツの競技力向上:約 1,700 万円・地域の障害者スポーツ活動の活性化:約 850 万円・障害者スポーツ人材バンクの活用:約 850 万円 (その他) 山口県身体障害者福祉センターの運営 運営費:約 1,850 万円(2012 年度) 担当部署:健康福祉部障害者支援課 調整班
--

4. 事業の紹介

○障害者スポーツ競技大会

1) キラリンピック(山口県障害者スポーツ大会) 春と秋の年 2 回開催。春の大会は、全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねる。2001 年度より毎年開催。水泳、陸上競技等に選手 1,236 人が参加(2012 年)
--

○障害者スポーツの教室

1) スポーツ教室の開催(県障害者スポーツ協会への委託事業) タンデム、ヨット等、年 5~6 回開催 参加者:304 人(2011 年度)

○全国障害者スポーツ大会への選手派遣

1) 2012 年ぎふ清流大会に計 90 人を派遣
2) 大会派遣選手合同強化練習(4 回)(県障害者スポーツ協会への委託事業) 参考:全国障害者スポーツ大会強化指定選手数:356 人(2011 年度) 2008 年の 232 人から増加

○障害者スポーツ指導者等の養成

<p>1) 初級障害者スポーツ指導員養成講習会(県内3会場) (県障害者スポーツ協会への委託事業) 県内の日本障害者スポーツ協会公認指導員:451人(2011年度)</p> <p>2) 障害者スポーツ人材バンクの活用(県障害者スポーツ協会への補助事業) 2011年11月設立。障害者スポーツ指導員、障害者スポーツ医、理学療法士、作業療法士、看護師、栄養士の計171人が登録(2013年2月現在)</p> <p>3) 障害者スポーツボランティア養成講習会(県内2会場) (県障害者スポーツ協会への委託事業) スポーツボランティア登録者:284人(2012年度)</p> <p>4) 障害者スポーツボランティアリーダー養成講習会 (県障害者スポーツ協会主催事業を後援) ボランティアリーダー数:44人(2012年度)</p> <p>5) 障害者スポーツ指導員等レベルアップ講習会 (県障害者スポーツ協会主催事業を後援)</p>

○その他の事業

<p>1) 障害者スポーツ競技団体活動支援助成金 595万円(2012年度) 競技団体が行う発掘から強化までの育成活動に対して、県障害者スポーツ協会が助成</p>

5. 関係組織の状況(障害者スポーツ関係組織の概要)

<p>障害者 スポーツ団体</p>	<p>1) (一社)山口県障害者スポーツ協会 経緯:2002年5月設立、2009年7月より一般社団法人 加盟団体:69団体(2012年9月現在)。障害者スポーツ競技団体をはじめ、障害者福祉団体、障害者関係施設、特別支援学校、山口県医師会などが加盟 予算:約3,300万円(2012年度) 会費(約300万円)、委託金(約1,000万円)、補助金(約1,800万円)、寄付金(約100万円)など 表彰:創立10周年記念イベント・表彰式(2012年度) 教室:タンデム、ヨット等 大会:風船バレー、グラウンドゴルフ、卓球バレー、ボッチャ等</p> <p>2) 山口県障害者スポーツ指導者協議会 事務局は、障害者スポーツ指導者の個人宅 予算:67万円 県障害者スポーツ協会と連携して事業を実施 主催事業:障害者スポーツ指導員等レベルアップ講習会 その他、山口県障害者スポーツボランティア養成講習会、障害者スポーツボランティアリーダー養成講習会に協力している。</p>
-----------------------	--

6. 特徴的な体制や取組み

2011年の全国障害者スポーツ大会(山口大会)を契機に、県の障害者スポーツを推進するため、2001年より障害者スポーツ振興検討委員会を設立し、長期的に県内の体制作りに取り組んだ。2002年には、県障害者スポーツ協会を設立し、障害者スポーツ団体の組織化、一般競技団体との連携強化を図った。



「緊急雇用創出事業臨時特例基金事業」の「障害者スポーツ地域コーディネーター派遣事業」を活用し、県障害者スポーツ協会のスタッフとして2人雇用。障害者スポーツの情報提供・指導及びスポーツ講習会などを実施した。

県の取組みとして、地域で障害者スポーツを支える組織作りを進め、県内各地での特色のある障害者スポーツの育成と活性化を目的に、市町が障害者スポーツ協会等を設立。

【下関市】

市障害者スポーツセンターを2004年に設立。市社会福祉協議会が市の委託を受けて経営。現在、出前講座を実施中(2012年度現在)

【萩市】

市障害者スポーツ協会を2009年に設立、同時に体育協会にも加盟。事務局は市社会福祉協議会におき、現在26団体、個人会員300人以上が加盟(2012年度現在)

【宇部市】

2001年設立の市障害者ケア協議会に働きかけて、2011年にスポーツ部会が設立。現在、指導者、ボランティアスタッフの募集、新たなスポーツ種目の習得等の研修をしながら、活動可能なイベントづくりを模索している(2012年度現在)

大分県

- 日本の障害者スポーツの父、故・中村裕博士の尽力により、他県に先んじて障害者スポーツが普及
- 大分国際車いすマラソンを 1981 年より毎年開催
- 県内の総合型地域スポーツクラブが障害者と交流

1. プロフィール

人口	1,184,399 人
総面積	6,339km ²
市町村数	18(14 市 3 町 1 村)

2. 担当部署

部署名	福祉保健部障害福祉課 計画・スポーツ班
人員規模	課長、班総括に加えて、障害者スポーツを職員 2 人が担当している。

3. 予算

約 3,500 万円(2012 年度) 大分国際車いすマラソンの開催や全国障害者スポーツ大会への選手派遣など、多くは大分県障がい者体育協会への委託事業の経費 (その他) 大分県身体障害者福祉センターの運営 運営費:約 2,700 万円(2012 年度) 担当部署:障害福祉課 地域生活支援班
--

4. 事業の紹介

○障害者スポーツ競技大会

1) 大分国際車いすマラソン

(県障がい者体育協会への委託事業)

国際障害者年(1981)にスタートした、世界初の車いすだけのマラソンの国際大会。2011 年の第 31 回大会には国内 37 都道府県の 206 人、海外 15 カ国の 55 人の計 261 人が参加。



2) 大分県障がい者スポーツ大会

(県障がい者体育協会への委託事業)

全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねた大会

【地域生活支援事業「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」の補助金を活用】

3) 大分県ゆうあいスポーツ大会

県内の知的障害児・者のスポーツ大会。1981 年より毎年開催。約 2,500 人が参加。

【地域生活支援事業「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」の補助金を活用】

○全国障害者スポーツ大会への選手派遣

- 1) 全国障害者スポーツ大会
2012年ぎふ清流大会に6競技26人を派遣

○障害者の専用・優先スポーツ施設の運営

- 1) 大分県身体障害者福祉センター
大分県社会福祉協議会の指定管理による運営

○障害者と健常者の交流を目的としたスポーツ大会

障害福祉課の地域生活支援班による「大分県障がい者・児『秋の交歓会』」の一環で開催されるもので、障害者スポーツ以外の予算から支出されている。

- 1) ふうせんバレーボール大会:19チーム140人が参加(2011)
2) 卓球バレー大会:26チーム221人が参加(2011)

○障害者スポーツ選手の講演会や実技披露等

- 1) アスリートと子どもたちとのふれあい交流事業(県障がい者体育協会への委託事業)
車いすマラソンのアスリート等を小学校や児童福祉施設に派遣し、講演と実演、競技用車いすの試乗体験などで交流を図る事業。2011年度は小学校9校、児童福祉施設11施設に派遣。また、交流会を行った学校の児童・引率561人を大分国際車いすマラソン大会に招待し、観戦・応援してもらった。送迎のバスを県が手配した。

○その他の事業

- 1) 障がい者スポーツ団体振興事業(県障がい者体育協会への委託事業)
障がい者団体や障がい者スポーツ団体による県大会の開催経費や九州大会等への参加経費に対する補助。

【地域生活支援事業「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」の補助金を活用】

5. 関係組織の状況(障害者スポーツ関係組織の概要)

障害者 スポーツ団体	<p>1) 大分県障がい者体育協会 経緯:1961年設立(全国で2番目) 加盟団体:21団体 予算:8,300万円(2012年度) 大分国際車いすマラソンの予算が大きな割合を占める 職員4人(うち2人は福祉関連施設からの研修者) 県の障害者スポーツ関連事業の多くを受託 大分県庁の障害福祉課内に事務局があり、大分国際車いすマラソンなどにも県職員と連携して取り組んでいる。</p> <p>2) 大分県障害者スポーツ指導者協議会 経緯:1992年設立 登録指導者数:649人 日本障害者スポーツ協会の公認指導者(初級、中級)の養成講習会を開催し、指導者の養成に努めるほか、県内の各種大会等の支援を行う。</p>
---------------	---

6. 特徴的な体制や取組み

日本の障害者スポーツの父とも言われる故・中村裕博士(社会福祉法人太陽の家 創設者)の尽力により、障害者スポーツが他県に先んじて普及した。車椅子バスケットボールがわが国にはじめて紹介されたのも、1961年の第1回大分県身体障害者体育大会である。

県では近年、ジュニアの育成に力を入れて取り組みは始めている。

県障がい者体育協会では、県内の総合型地域スポーツクラブが集まる会議を通じて、障害者スポーツとの交流をクラブに呼びかけている。2010年度には13クラブ、2011年度には18クラブで障害者スポーツの体験会や交流会が行われた。

東京都葛飾区

- 1994 年から教育委員会生涯スポーツ課が障害者健康水泳教室を実施
- 区独自で障害者スポーツの指導員を養成。184 人が登録

1. プロフィール

人口	447,170 人
総面積	35km ²

2. 担当部署

部署名	教育委員会生涯スポーツ課
人員規模	生涯スポーツ課の人数は 20 人で、内 1 人の兼務職員と定年後再雇用された非常勤職員 1 人(週 4 日)が担当している。

3. 予算

約 140 万円(2012 年度) 障害者健康水泳教室、障害者スポーツ教室、障害者スポーツ指導員養成講習会の会場使用料と謝金

4. 事業の紹介

○障害者スポーツ・レクリエーションの教室

1) 障害者健康水泳教室(月 1 回程度)1994 年度より実施

主催:葛飾区教育委員会

定員:30 人

対象:区内在住・在勤の障害者

会場:葛飾区総合スポーツセンター温水プール

内容:身体機能の回復・維持
(ウォーキング、リズム体操等)

指導者:葛飾区公認スポーツ指導員

時間:原則、第 4 水曜日 14:00~15:00

周知:障害者福祉協会や関連の障害者団体、
作業所、小学校の特別支援学級などに声かけ

備考:障害者の健康づくりの観点から、継続的に機会を提供

月 1 回(第 4 日曜日 16:30~18:30)、障害者に 1 コースを専用レーンとして開放



2) 障害者スポーツ教室(年 2~3 日程度)1998 年度より実施

主催:葛飾区教育委員会

定員:40 人

対象:区内在住・在勤の障害者

会場:葛飾区総合スポーツセンター小体育館

内容:身体機能の回復・維持(ペットボトルのボウリング、スポンジボールテニス、卓球、リズム体操等)

指導者:葛飾区公認スポーツ指導員

○障害者スポーツ指導者の養成

<p>1) 葛飾区障害者スポーツ指導員養成講習会 1998 年度より実施 主催:葛飾区教育委員会 後援:日本障害者スポーツ協会 協力:東京都障害者スポーツ協会、東京都障害者総合スポーツセンター 対象:20 歳以上の区内在住・在勤者で、障害者スポーツ指導関係者、または、指導者を目指している者 会場:葛飾区総合スポーツセンター 定員:25 人 参加者内訳:障害者スポーツ関係者(50%)、学生(25%)等 参加費:1,000 円(保険料含む) 登録者数:184 人</p>
--

5. 関係組織の状況

障害者スポーツ 関係組織	なし
-----------------	----

6. 特徴的な体制や取組み

<p>1994 年度から一貫して、生涯スポーツ課が障害者スポーツを担当。当時の担当者が、地域の障害者の健康づくりの必要性を感じ、障害者スポーツに取り組んだ。結果、障害者スポーツの指導者が必要と考え、独自に養成することになった。</p>
<p>東京都障害者スポーツ協会が、都の補助事業「障害者スポーツ地域開拓推進事業」の一つとして、地域開拓推進員を派遣、葛飾区独自で養成する障害者スポーツ指導員のカリキュラム作成などを全面的に支援している。</p>
<p>区内の特別支援学級や、障害者の自主グループから指導員派遣要請があり、区で養成した障害者スポーツ指導員がボランティアとして派遣され、クラブ活動を支援している。</p>

兵庫県多可町

- 社会福祉協議会を通じて、町内の特別支援学校と小中学校の生徒が活発に交流
- レクリエーションに精通したスタッフが考案した種目を毎年提供し、参加者が飽きない大会を継続して開催

1. プロフィール

人口	23,071 人
総面積	185km ²

2. 担当部署

部署名	健康福祉課
人員規模	健康福祉課の人数は 27 人で、内 1 人が障害者福祉の業務の一部として、障害者スポーツを担当している。

3. 予算

約 62 万円 (2012 年度) 多可町障害者スポーツ大会の開催経費と水泳教室の委託料

4. 事業の紹介

○障害者スポーツ・レクリエーションの運動会(市民大会など)

多可町障害者スポーツ大会 主催: 多可町身体障害者福祉協会、多可町手をつなぐ育成会、白ゆり会家族会(精神障害者の家族会) 後援: 多可町、多可町社会福祉協議会、多可町民生委員児童委員協議会、多可町体育協会、多可町スポーツ推進委員会、多可町ボランティア連絡会 参加人数: 約 260 人 (2012 年度) (内訳: 障害者 120 人・家族 50 人・スタッフ 90 人) 対象: 全障害者とその家族 会場: 多可町健康福祉センター(アスパル) 送迎: バス・車などの利用を事前に利用者に確認(2012 年度は 36 人が利用)

○障害者スポーツ・レクリエーションの教室

水泳教室(多可町手をつなぐ育成会への委託事業) 開催: 年 12 回(月 1 回) 参加者: 毎回 12~13 人参加 対象: 知的障害者 指導者: 特別支援学校で指導経験のあるインストラクター 会場: 多可町立温水プール(サンスイム・カミ) 【地域生活支援事業「スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」の補助金を活用】

5. 関係組織の状況(障害者スポーツ関係組織の概要)

障害者スポーツ 関係組織	なし
その他 関係組織	<p>1) 多可町身体障害者福祉協会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の障害者手帳保有者約 1,200 人のうち、約 800 人が登録 ・集落ごとに役員が選出されており、密に連絡を取り合っている <p>2) 多可町ボランティア連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・託児、手話、給食調理、朗読などのボランティアサークルの会員約 600 人が登録 <p>3) 多可町手をつなぐ育成会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の療育手帳保有者 160 人の内、46 人とその家族が登録 ・会員を対象にした各種行事や会員外も対象にした療育事業を実施

6. 特徴的な体制や取組み

多可町障害者スポーツ大会は、社会福祉協議会内にレクリエーションに精通したスタッフがいる。障害で差が生まれず、多くの参加者が一体となって楽しめ、参加者が飽きないように、毎年、新種目を考案。2008 年度から開催し、今年度で 5 回目を迎える。

・周知方法

社協広報誌、ケーブル TV 文字放送をはじめ、担当者が町内の作業所(4カ所)、精神障害者施設、知的障害者施設(2カ所)、特別支援学校に訪問して、大会開催を案内

・開催種目(第 5 回大会)

コーンボウル、点鳥ルーレット(風見鶏をスティックで打つルーレット)、開運お手玉(得点台に向かっておじゃみを投げる)、スカットボール(得点台に向かってボールを打つ)、リレー、運んで運んで運びまくれ!(ボールを時間内にいくつ運べるかを競う)、新聞紙玉入れ等



「県立北はりま特別支援学校」が町内にあり、子どもたちは社協主催の『社協まつり』や自分たちが実習で作った商品の販売体験、町内小中学校による福祉体験や部活動などを通して、地域の人たちと交流している。